

CASBEE® 名古屋

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 評価指針2016年版、名古屋市環境総合性能評価マニュアル2016

評価結果

使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ダイアパレス川原通 新築工事	階数	地上10F
建設地	名古屋市昭和区川原通六丁目4番、6番1、6番2 近隣商業地域・準防火地域・绿化地域、対高45m高度地区、都市機能誘導区域内、居住誘導区域内	構造	RC造
用途地域	6地域	平均居住人員	96 人
地域区分		年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年9月 予定	評価の実施日	2025年10月29日
敷地面積	585 m ²	作成者	
建築面積	281 m ²	確認日	2025年10月29日
延床面積	2,300 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)																									
<p>BEE = 1.2 ★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★ B: ★★ C: ★</p> <p>30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>建設</td> <td>修繕・更新・解体</td> <td>運用</td> <td>オンライン</td> <td>オフサイト</td> </tr> <tr> <td>①参照値</td> <td>42</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>42</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外のオンライン手法</td> <td>42</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>④上記+オフサイト手法</td> <td>42</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>46</td> </tr> </table> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>	建設	修繕・更新・解体	運用	オンライン	オフサイト	①参照値	42	46	46	46	②建築物の取組み	42	46	46	46	③上記+②以外のオンライン手法	42	46	46	46	④上記+オフサイト手法	42	46	46	46		
建設	修繕・更新・解体	運用	オンライン	オフサイト																							
①参照値	42	46	46	46																							
②建築物の取組み	42	46	46	46																							
③上記+②以外のオンライン手法	42	46	46	46																							
④上記+オフサイト手法	42	46	46	46																							

2-4 中項目の評価(バーチャート)	Q のスコア = 2.8	
Q 環境品質	Q1 室内環境	Q2 サービス性能
	Q1のスコア = 3.1	Q2のスコア = 2.9
	Q3 室外環境 (敷地内)	Q3のスコア = 2.5
LR 環境負荷低減性	LR のスコア = 3.4	
	LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
	LR1のスコア = 4.4	LR2のスコア = 2.7
	LR3 敷地外環境	LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
車両通行が多い大通りからの景観および近隣公園からの景観に配慮した外観デザインとした。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
床衝撃音に対しての遮音性が優れているスラブ厚240mm以上を確保。	階高2.96m以上とし、ゆとりある住空間としている。	道路境界付近に植栽を多く計画することで良好な街並みを創出した。 歩車分離とすることで居住者の安全性および快適性を確保。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
日本住宅性能表示基準[5-1断熱等性能等級]等級5および[5-2一次エネルギー消費量等級]等級6の取得	節水型便座や水栓を採用した。	自転車置き場を極力多く計画することで、パークアンドライドを促し、公共交通機関の利用促進に貢献した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフケイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)ダイアパレス川原通 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策			4.0
LR1 エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2 溫熱環境悪化の改善	2.0	0.066666667	
2. 自然共生			1.3
Q3.1 生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会			2.7
LR2.1 水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.025	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。